

早稲田のいぶき

地域活性化分科会

第17回まち歩き
本郷界限



●安田講堂前で記念撮影

11月26日（土）、第17回目となるまち歩きを、歴史と文化のまち「本郷界限」にて実施しました。参加者は委員を含め約40名、榎町地域センターに9時集合、鶴巻町から春日駅前まで都バスで移動、礫川（れきせん）公園で新宿歴史博物館のボランティア・ガイド脇阪さん、和地さんと合流しました。ガイドさんの説明が加わるとまち歩きはより楽しくなります。

最初の訪問先は、こんなにやく閻魔で知られる源覚寺。眼病を患った老婆が好物の「こんにゃく」を断ち一心に平癒を祈願したところ、閻魔大王が身代わりとなり、自らの右目を老婆にあげ、老婆は視力を回復したと伝えられる故事からこの名があります。今日も仏前に供えられた沢山の「こんにゃく」と右目部分が割れて黄色く濁った閻魔大王を目にすることが出来ます。こんにゃく閻魔は夏目漱石の「こころ」、樋口一葉の「にこりえ」にも登場します。



●菊坂辺り、樋口一葉も使ったとされる井戸



●樋口一葉が足しげく通った旧伊勢屋質店と土蔵



●こんにゃく閻魔で知られる源覚寺

当日は公開日（土日及び11月23日）のため内部も見学できませんでした。樋口一葉宮澤賢治旧居跡から一葉ゆかりの法真寺に寄り、東大正門に到着。銀杏黄葉が盛り的美しさです。東大の銀杏並木は当日の朝NHKニュースでも取り上げられ、黄葉目当ての人々も多く賑やかです。正門から銀杏並木を真っ直ぐに進み、途中、道を挟んで左右対称に古風なアーチの天井の法学部の建物が目を見えます。突き当りに堂々の安田講堂が現れました。ここで記念撮影を撮りました。

更に構内を巡り三四郎池に向かいます。夏目漱石の名作「三四郎」で有名になり三四郎池と呼ばれるようになりましたが、正式には育徳園心字池だそうです。都会の中とは思えない自然が残っています。「三四郎池は初めてです」との会話もちらほら。

加賀藩13代目藩主前田斉泰の正室に第11代將軍家斉の娘溶姫を迎えたことで建立された御守殿門であった赤門を後にし、まち歩きは終了しました。



●紅葉で彩られた三四郎池



●東大赤門



●堂々たる東大正門



●アーチの天井が目を引く左右対称に建つ法学部

地域活性分科会

コミュニティ講座

9月2日(金)に開催されたコミュニティ講座では、訪問介護業界で活躍されている株式会社でいくにていの吉田真一社長とスポーツ界で活躍されているゴールボールの全日本男子主将の信沢用秀選手をお招きし、それぞれ講演を行っていただきました。

吉田社長は、19歳の時に海で飛び込みをした際に浅瀬であったことが災いし、頸髄を損傷し、四肢麻痺になりました。毎日常在宅介護を受ける中で、人が定着しない介護業界を改善しようと思ひ立ち、起業したそうです。社名でいくにてい(=Dignity)は、英語で尊厳を意味するDignityと一致団結を意味するUnityを合わせたそうです。会社の使命としては、1「お客様の最高の笑顔のために」、2「介護スタッフの安心な暮らしのために」、3「障害者／高齢者の自立のために」の3つを掲げています。

誰にでも障害者になる可能性があります。想像したことのない障害のある生活など吉田社長の率直な言葉に聴衆は引き込まれていきました。最後に障害のある方へ

は、遠巻きにしないで気軽に一言「お手伝いできることはありませんか」と声をかけていただきたいとの事でした。健常者には気にもかからないほどのちよつとした事、例えばペットボトルを手許に添えて欲しいとか、少し座る位置をずらしてほしいとかそれだけ手伝って頂けるだけでも、声をかけて頂くだけでも障害者の生活の質は一層高まるということでした。

信沢用秀選手は、パラリンピックの正式種目であり、ロンドン五輪で女子チームが金メダルを取得したゴールボールについて映像を交えて紹介してくれました。

次に、ゴールボールをつけ、全く前が見えない状態でゴールボールの体験をしました。ゴールボールをつけたとたんに重心の感覚を失い思う場所にボールを投げることもできません。キャッチすることもうまくできません。周りの「右！右！前よ！それは反対！」と声ははつきり聞こえるのですが、指示どおりに動けません。このような状況の中、パラリンピックの選手は並外れた身体能力で世界を相手に戦っていると改めて思いました。



●吉田社長の率直な語り口に引き込まれる



●実践！ゴールボール 身体を張ってゴール阻止

榎ふれあいデー（7月9月11月は榎町地域センターで実施）

7月30日

「貝の宝石づくり」

千葉の館山から「貝の博士」福田康孝先生にお越しいただき、「貝の宝石づくり」を実施。オリンピックを前に世界で一つ、自分だけの「貝の金メダル」に挑戦しました。皆一心不乱に磨く事1時間。手も疲れましたが、努力と根気の甲斐があり、全員ピカピカの光り輝く「貝の金メダル」ができました。午前・午後で62名の皆さんもピカピカの笑顔でした。



●みんな一生懸命に磨いて磨いて貝の金メダルづくり

9月4日

「ただじゅんさんと遊ぼう」



●ただじゅんさんの太鼓の音で団扇だけで薄紙は天上高く上がる、上がる、舞い上がる。

今年も太鼓と楽しい遊びを持って、ただじゅんさんがやってきました。楽しい手遊びの後、皆で力を合わせ、色とりどりの薄紙を天へ天へと団扇であおぎ上げました。綺麗な紙の舞にうっとり、踊り出すように追いかける子もいました。最後は恒例の太鼓をたたいて「ふれあい手作りお神輿」をみんなで担いで、元気にふれあいました。



●エイ！エイ！オー！

11月6日

「ハンドベルとミニコンサート」



●みんなで「カノン」を大演奏

例年の「早稲田ノエルズ」のハンドベル演奏に加え、今回は「榎町子ども家庭支援センター」「早稲田南町児童館」「薬王寺児童館」の児童と「コラボレーション」でミニコンサートを開催しました。リズムに乗って元気いっぱいダンス、見事なジャグリング、沖繩の海が見えるようなエイサー、昭和の歌をバックにベーゴマ回し、合唱等日頃の練習の成果を披露してくれました。緊張感と楽しそうな表情に一生懸命練習してきたのがとてもよく分りました。早稲田ノエルズのハンドベルの音は天使の羽のようにやさしく心に響き、児童も来場者もベルの音色に聞き入っていました。最後はみんなで「カノン」をハンドベルを使って演奏しました。息の合った心温まるきれいな音色でした。

10月2日

「木工クラフト」

12月4日

「クリスマスツリーを作ろう」

快晴の下、早稲田通りで実施。最近では幼児親子の参加が多くみられます。

「木工」はトンカチを使わず、色々な形の木片を貼り合わせたり、マジックインキで色を付けたり、積木にしたりと安全で楽しい作業でした。

12月のクリスマスツリーは三角帽子にシャカシャカテープやシル等の飾りつけをして、可愛いツリー帽子ができて上がり、みんなご満悦でした。帽子をかぶって「はいポーズ！」サンタさんのプレゼントも期待できそうです。コマ、羽子板、なわとび、あやとり等の遊びも人気がありました。



●ハイ、ポーズ！

榎ふれあいクッキング

7月23日「ホットケーキミックスでお菓子をつくろう！」

12月4日

「円く丸く角ばらず、来る年を和やかに」

大人気の「お正月料理」は男性2名を加え15名が参加。調理の前に先生より「円く丸く角ばらず」についてのお話がありました。



●先生の注意をよく聞いて

今回は品数も多く、細工物もありと頑張り甲斐があったようです。手に入らない材料もあり、急遽メニューの変更にも年末の野菜の高騰を感じました。男性2人は料理好きと言っただけあって見事な包丁さばき。「マイ包丁」持参の方もいらっしゃいました。

でき上がったお料理を前に、「祝い箸」が柳の木で丸い由をお聞きし、改めて「円く丸く」の意味をかみしめ、美味しくいただきました。

小学生夏休み食育教室は17名の児童が「おやつ」に挑戦。「ホットくまサンド・丸ごとバナナケーキ・トマトチーズ蒸しパン・フルーツミルクかん」そしてサラダバイキングの5品。



●「円く丸く角ばらず」

中村廣子先生の注意を良く聞いて、真剣に調理をしたかきがあり、上手においしい「おやつ」ができました。自分を前に一人ひとりの記念撮影。試食もお腹いっぱい「満足ー満足ー」。最後に先生から写真付きの修了証書を頂き、とても嬉しそうでした。

実践！体験型安全教室

10月1日(土)、「NPO法人体験型安全教育支援機構」清永奈穂代表理事を講師にお招きし、体験型の安全教室を榎町地域センターの4階多目的ホールで開催しました。

不審者対応の分かりやすい説明から始まり、①大声を出す！囁みついてみる！②きつぱり断り、家に駆け込み、どこで何が起きたのかを伝える③腕をつかまれたら、腕ブンブンで逃げる④ジタバタしてみる！ロケットダッシュ!!で逃げる⑤ランドセルを背負って走って逃げる等々のロールプレイを行いました。

犯人役を務めた安全安心分科会の委員は、タオル越しとはいえ実際に子供たちに囁みつかれ、その痛さも体験できました。ゲーム感覚でのロールプレイのため、参加した保護者と児童それぞれが楽しみながら、かつ自然に危機対応の方法を持ち帰っていただけ良かったです。

教室終了後のアンケートでも「実際に大きな声を出せるか心配がりましたが、大きな声を出す練習ができてよかったです。」「実践的でとてもよかったです。本気で捕まる犯人役がいると子ども達も本気になりよかったです。」「参加できて大変良かったです。もう一度参加したい。」「児童からも「もしもの時にどうすればよいかなど、詳しく話してくれたので安心しました。次は独りで電車、バスに乗って出かけるときの注意を知りたい。」などの意見をいただきました。

高齢者防犯講話会

当分科会が高齢者の安全・安心にも一役買っています。高齢者を狙った詐欺は手口を変え、被害が衰える心配が全くありません。牛込警察署生活安全課のお巡りさんを講師に6月、9月、12月の3回にわたり、防犯講話会を開催しました。実際に被害に遭った方の生の声や被害に遭っている様子を映像を通じて知ること、犯罪の手口、犯人像、被害者の心理を学べる工夫がされています。また、新しい詐欺の手口、新たな撃退法を紹介するなど、ピーターのとても多い講話会です。来年度も3回予定しておりますので、ぜひご参加ください。



●毎回新手の手口と対策を紹介するリピーターの多い高齢者防犯講話会



●実践!家に駆け込み、どこで何が起きたのか伝える練習。保護者も子どもの目線に合わせて。

早稲田みょうがと早稲田地球感謝祭

平成28年9月22日(木)榎地区協議会環境美化分科会(リーダー・廣井鶴巻西町会長)では、地球感謝祭(於・早稲田大学)において早稲田みょうがの試食会を開催しました。早稲田みょうがは、江戸時代から明治時代にかけて早稲田鶴巻町を中心に栽培されていた伝統野菜です。しかし、都市化とともにいつしか栽培されなくなり、あまり見られなくなりました。平成22年頃から早稲田みょうがの捜索活動が実施され、発見された早稲田みょうがを基に再び栽培されるようになりました。

榎地区協議会環境美化分科会では、かつて、早稲田の名物であった早稲田みょうがを再び地域に根付かせるため、各小学校への植栽等により普及啓発に取り組んできました。この度、より多くの方に早稲田みょうがを知ってもらうため、地球感謝祭に出店し、試食会を開催しました。試食会はお豆腐に早稲田みょうがを薬味として添える形で提供しました。あいにくの雨天でしたが、用意した300食があつという間になくなり、試食した方々からは「美味しいね。」「普段あまり食べないけど、とても香りがあつていいですね。」「等の声が聞こえ、大変好評でした。試食された方々へより一層早稲田みょうがを知ってもらうため、早稲田みょうが復活の立役者でもある早稲田大学の早田幸教授に早稲田みょうがの由来等を記したパネルを作成してもらい、テント内に掲示しました。なお、このパネルは地球感謝祭終了後は榎町地域センターに掲示しています。

途中、NHK BSプレミアム「ニッポンぶらり鉄道旅」の取材を受け、期せずして早稲田みょうがを全国的にPRすることができました。また、新宿区長も公務多忙の中、お立ち寄りくださり、早稲田みょうがに舌鼓を打たれていました。さらに戸塚地区からも戸塚地区協議会の委員と特別出張所長が応援に駆け付けて下さり、早稲田みょうがの普及啓発を榎町地区と戸塚地区とでコラボレーションすることができました。



●予想以上の大盛況



●舌鼓を打つ吉住新宿区長



●小雨の中、案内中の委員

●榎地区協議会は住民の皆様の意見を集約し、また行政の方針を検討し、地域の考えを区政に反映していく窓口として、がんばっていきます。

お問合せ・ご応募は 榎地区協議会事務局(榎町特別出張所内)まで

Tel 03-3202-2461 Fax 03-3202-2476

〒162-0042 新宿区早稲田町85番地 榎町特別出張所内 榎地区協議会事務局

<http://www.city.shinjuku.tokyo.jp/division/261500enoki/index.html>

お待ちしております

公募委員

おります